

四国林政連絡

協議会を開催

〈企画調整室〉

九月二日、愛媛県庁において林野庁、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、第三四回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり会長の中山四国森林管理局長から「この協議会は、関係機関が一堂に会し、森林・林業の諸課題について意見交換を行い、共通認識を持つ大変重要な場である。今回は「美しい森林づくり推進国民運動」をテーマに忌憚のない意



見交換ができればと考えている。林業を取り巻く環境の変化の激しい時代ではあるが、山村を元気にするという共通認識のもと、協議会に参加されている皆様とともに取り組んで参りたい」と挨拶がありました。

次に開催県である愛媛県篠原林業政策課長から「今回の意見交換のテーマは「美しい森林づくり推進国民運動」であるが、愛媛県では森林環境税を活用した、県民、企業参加の森づくりの推進や、森林プロジェクトによる低コスト作業システムや県産材の使用の推進を図ってきた。各機関におかれては、協議会の成果を活用して、四国の森づくり、林業の活性化に向けて、より一層の協力をお願いします」と挨拶がありました。

続いて、林野庁計画課柳田施工企画調整室長から「平成二十一年度予算概算要求の重点事項」について説明、「四国山の日賞」選定団体の報告、審議が行われました。その後、各機関が問伐推進をはじめとする美しい森林づくりに向けた施策について説明し、それらの取組を題材に活発な意見交換が行われました。

各地の

たより



第四十八回治山研究

発表会で優秀賞受賞

〈徳島県〉

治山事業関係者による技術研究等の成果を相互に発表することにより、情報交換を行うことにより、情報交換を行って、もって治山事業を進展させる目的で、去る九月二十四日、東京都代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて治山研究発表会が開催されました。

第四十八回目を迎えた今回、林野庁のみならず都道府県からも、コストを削減した工法の紹介や、緑化、環境に配慮した工法な



ど関連した四十七題もの取組の発表が行われ、各発表ごとに審査委員をはじめ、会場から活発な質問、助言等が交わされました。

当署からは、祖谷川第二治山事業所管内三好市東祖谷にある「平谷地すべり地内の治山ダム構造開発および改良とその成果」について、長年の取組と、施工後三十年を経過した状況について、国土防災技術(株)と協同で発表しました。

審査委員等からは、「巨大事業であり、特異な地すべり地内での様々な工法を長年において改良された成果であり、今後類似した地すべり地において治山事業に役立てられる。」と評価され、優秀賞を受賞しました。

民有林直轄治山事業

推進協議会を開催

〈徳島県〉

九月三十日、三好市東祖谷総合支所多目的ホールにおいて、地域住民の方々と当署の東祖谷民有林直轄治山事業について意思の疎通を行うとともに、事業の円滑化を図ることを目的とした協議会を開催しました。

当日の協議会には、三好市長をはじめ市の関係職員、地元関係地区(八地区)代表の



区長・相談役、地元漁業組合関係者、また、当署からは署長はじめ治山関係職員など、総勢二十七人が出席しました。

当署から、事業の進捗状況、有識者委員会での検討結果、事業の必要性、用地確保への協力等について説明と要請を行い、各地区代表からは、関係地区の要望事項についての説明がなされ、それぞれの事項について意見交換を行いました。

今後も、地域住民の方々と対話を通じて、円滑な事業の推進を図り、安全で安心して暮らせる環境づくりとしての治山事業を目指すこととしており、更なるご理解とご協力をお願いし閉会しました。

中学生は竹を使って 小学生は木の美や葉っぱで

―森林教室で炭焼き体験―

〈ふれあいセンター〉

九月二十四日、鬼北町立日吉中学校二年生十九名を対象に、簡易炭焼き器を使った竹炭づくりを指導しました。

これは、炭焼き体験を通して、森林資源を大切に作る気持ちや育むこと、炭の特徴や性質を理解して、暮らしとの結びつきやエネルギー事情を知ることを目的に実施したものです。

簡易な炭焼き器とはいえ、ブロッコやレンガで囲い、土で固めるなど準備は大きかりですが、職員の指導の下、生徒たちは手際よく設置作業を終えました。次に、材料となる長さ四十cm、幅四cmほどの竹を約二十kg、



竹炭が完成



炭の実験

隙間がないように縦に並べ着火しました。

燃焼中の時間に、炭の用途や種類、構造を説明するとともに、実物の炭の感触や音の違いを体感したり、炭を使った実験をしました。

三時間後、煙の温度が約三百五十度になったところで、赤土を粘土状にして焚き口をふさぎ消火、密閉状態のまま二時間ほど冷ました。

子どもが、固唾をのんで見守る中、いよいよ炭の取り出し開始です。「アツ、できる!」「すごいネ!」と徐々に歓声が上がります。早速、慎重に取り出していきます。できあがった竹炭の重さは約3kg、元の重さの十五%ほどになったことが分かりました。さらに、「貴重な体験ができた」「炭の学習ができて良かった」な

どの感想も聞かれました。この日できた竹炭は、後日、脱臭剤として利用するそうです。

九月二十六日、松野町立松野西小学校四年生三十六名を対象に、木の美や葉っぱを炭にする体験学習を指導しました。

同校四年生にとって、今年度第四回目の森林教室となったこの日のテーマは「炭」。始めに、「炭は何に使うかな?」「炭は何の木からできるかな?」等の質問を交えながら、種類や利用方法を話しました。また、顕微鏡による観察や水槽に浮かべる実験、電流計を使った実験を行いました。

次は、実際に炭焼き体験です。職員から手順や注意点を聞くのももどかしそうに、もみ殻と各自が持参したマツホツクリやドリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火で焼くこと約三十分、煙の色が透明になったことをみんなで確認して、缶を取り出しました。

ふたを開ける時は、少し緊張した様子でしたが、ちゃんと炭になっていたのでひと安心。そしてケースに移し替えていました。児童代表からは、「初めての炭焼き体験ができて、うれし

かったです」と感想があり、炭への関心、理解に繋がる学習となったようです。

一〇月は「木づかい推進月間」

〈企画調整室・総務課〉

平成一七年度から始まった「木づかい運動」では、地球温暖化防止に向けた国産材の利用拡大を図るための国民運動として、様々な取組を展開しています。中でも、一〇月を「木づかい推進月間」として集中的な活動を行っています。

今年も四国森林管理局では、この月間の一環として、庁舎一階の「森林ふれあい館」において、十四日から二十六日の間、木製品の展示等を行い広く国民のみなさんへ木の良さをPRしています。



木づかい運動
ロゴマーク

事務所移転のお知らせ

嶺北森林管理署の南小川治山事業所が十月一日から次のとおり事務所を移転しましたのでお知らせします。

新住所

〒七八九〇二五〇
高知県長岡郡大豊町黒石
三四三一一
(大豊町農業センター内)
TEL
〇八八七七一〇四五七
FAX
〇八八七七一〇一八二〇

今月の主なイベント等の予定

- △二十五日～二十六日
第三十二回全国育樹祭 (松山市)
- △三十日～三十一日
「レクリエーションの森」
リフレッシュ対策のフォロ
ーアップ委員会 (久万高原町)
- 森林育成担当者会議 (森林整備課)

⑤ 入組ミーティング
地域の声

「『最初の清流』四万十川を
目指して」

「WZF若武者絶対増やす」

実行委員会」実行委員長

高知県立四万十高等学校

二年 藤石 悠希



実行委員会のメンバー

四万十高校には自然環境コースがあり、特に森林教育に力を入れています。授業「森と川と海」では、森・川・海のつな

がりを理解し、自然環境の保全には、すべての原点である森が大切だということ学びます。一年生が行う屋久島研修では、世界自然遺産屋久島の森で原生林のすばらしさを体感するとともに、人と自然の共生について考えます。中高一貫教育では、連携中学校の生徒とともに、四万十川の源流点である不入山でフィールドワークを行い、総合学習では地元市ノ又風景林で人工林と天然林の違いや、人工林の手入れの大切さについて学びます。高知県の協働の森づくり事業の一つである「コクヨ四万十結の森」では、植生調査を行ったり、筑波大学と協力してパースナルフリュームという森林の保水力を測定する機械を設置し、データ回収と解析を行っています。このように四万十高校は森林を利用した授業や活動が多いのが特徴です。

四万十高校のもう一つの特徴として、生徒自主活動組織とこの活動があります。これは部活動とは違って私達生徒自ら立ち上げた組織で、環境問題や地域振興などいろいろな問題に取り組むグループがあります。私は、「WZF若武者絶対増やす実行委員会」というグループで実行委員長をしています。Wは若武者、Zは絶対、Fは増やすの意味で、四万十川の問題を自ら考え、行動する人間（若武者）を増やしたいと、平成十八年に先輩が立ち上げました。自分たちが進んで行動をおこし啓発活動を行うことで、四万十川の生態系を豊かにし、「最後の清流四万十川」を誰もが認める清流四万十川に、最終的には、全国へ活動を広げる「最初の清流」にしたいと考えています。私たちは年に一度、環境問



「四国山の日賞」受賞

題を考える啓発イベントを行っています。この夏休みには一遊んで学ぼう！森・川・海」と題し、中高生・一般の方々に森・川・海のつながりについて体験を通して学んでもらうイベントを行いました。県内外から二十六名の参加があり、間伐体験や水生生物学習、ポディードなどを行いました。川の環境保全には森林の整備が不可欠であると実感してもらったためにおこなった間伐体験では、大正町森林組合のご協力により、三人一組で一本の木を切る体験ができました。参加者からは「昔はチェーンソーもなく、のこぎりで太い木を切っていたと思うとすごい。」「植樹はやったことあるけれど、植えるだけでな



間伐体験

く後々の手入れが大切ということがわかった。」という感想が聞かれました。最初はどのようなことかと不安もありましたが、皆で協力してイベントを成功させることができよかったです。森・川・海のつながりの大切さを参加者に伝えることができたとおもいます。

私は四万十高校の授業や自主活動で森林の大切さを学びました。これからも森林保全や啓発活動が続けていき、様々な人たちに森の大切さを伝えていきたいとおもいます。



「高知県立四万十高等学校」は、平成十九年度「四国山の日賞」（森林環境教育分野）を受賞されました。

シリーズ③ 四国局の技術開発

『保育作業の省力化による森林育成技術の確立』

〈森林技術センター〉

技術開発の主な取組について、平成二〇年度は六回シリーズで紹介しており、今回はその第三弾です。

【目的】

保育作業の省力化として、これまで下刈等の省力化に取り組んできましたが、除伐は密度調整を含め、除伐と除伐Ⅱ類(形質不良の植栽木を含む)の一回、作業が行われているのが現状です。当センターでは、低コストの森林育成技術の確立に向けて、除伐作業の省力化に向けたデータ収集等に取り組んでいます。



奥南川山試験地

【試験地】

高知県吾川郡いの町奥南川山国有林(二六八から三林小班・標高約一〇〇〇m)、高知県安芸郡北川村野川山国有林(一〇二五いーる林小班・標高約三五〇m)

【試験内容】

標高の違う試験地で無除伐区と除伐区と比較成長調査を実施しています。また、奥南川山二六八から三林小班的試験地は、下刈回数別の試験地を利用して、下刈から除伐までの省力化試験となっています。

【試験結果(継続中)】

奥南川山試験地(十五年生)の現時点における樹高・材積成長は図1、図2のとおりです。樹高・材積成長とも無下刈区での成長が比較的遅いなど、下刈回数によって成長差が生じていますが、平成十八年十一月の除伐実施から一年後の短期間では、除伐実施による成長差はまだ現れていないと考えられます。

また、除伐前の調査では、下刈り回数が少ない試験地ほど野鼠とみられる被害が多く確認され、本数被害率は除伐区が二〇%に対し、無除伐区は四四%でした。

集を行っていきます。なお、保育作業の低コスト化を目指すためには除伐作業の省力化の検討は必要であり、今後、試験地箇所を増やす等、

試験データの蓄積により、成果が広く利用できるようにしたいと考えています。

次に野川山試験地(十三年生)での現時点における樹高・材積成長は図3、図4のとおりです。こちらの試験地も奥南川山試験地と同様に、除伐一年後の短期間のため、除伐による効果は現れていません。

